



海野 素央 氏

連合駿台会三月例会

「ドナルド・トランプ米大統領の
リーダーシップスタイルと
コミュニケーション戦略」

明治大学政治経済学部 海野 素央 教授
連合駿台会三月例会を、令和八年三月十八
日（水）十七時三十分より、ロイヤルパーク
ホテル「有明の間」で、海野素央先生をゲスト
スピーカーとして開催しました。

開会に先立ち、田村駿会長から次のような
挨拶がありました（挨拶主旨）。

皆さんこんばんは！ やっと春らしくなっ
てきましたね、桜の開花宣言も近々であるの
ではないでしょうか？

さて今年の一月は、箱根駅伝に出場できず
寂しいお正月でしたが、創立一五〇周年記念
事業の一つとして「紫紺の襷プロジェクト」
を、大学挙げて取り組んでいますので、来年
のお正月に期待したいと思います。しかし昨
年、野球部は昨春秋東京六大学野球で優勝し



連合駿台会報

No.378 令和8年5月15日発行
発行・編集 連合駿台会
発行人 広報委員長・齋藤柳光
編集人 事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052 千代田区神田小川町三十二
明治大学「紫紺館」内
電話（〇三）三二九六―四七四七
印刷 有限会社 美 創

ましたし、ラグビー部は対抗戦グループで一位、そして一月の大学選手権大会決勝で宿敵早稲田を破り、七年ぶり十四回目の大学日本一に輝きました。

そして、二月はミラノ・コルティナ冬季オリンピック、あのリクリウウの逆転金メダルで涙を流された方も多かったと思いますが、メダルラッシュの先鞭を付けたのは、明大OGで二〇二一年政経学部卒の丸山希さん、女子スキージャンプ個人で銅、メダル第一号となり、その後の日本に大きな勢いを付けました。そして、締めくくりは、男子フィギュアスケートで、政経学部四年・佐藤駿君が涙の銅メダル、団体でも銀を取りましたので、丸山さんの混合団体の銅と合わせ、明大勢で四個のメダルを獲得、素晴らしい活躍でした。

それから、三月といえば、皆さんの関心事は、大学経営の柱の一つであります一般入試の応募者数はどうなったか？ だと思います。十八歳人口の減少、少子化が進む中ですが、今年も明治は昨年に引き続き十一万五千人以上を確保することができました。応募者数は今年も東日本第一位です。余談ですが、女性弁護士第一号の三淵嘉子さんをモデルにしたNHK朝ドラ『虎に翼』が、大変好評でしたので映画化が決定され、来年二〇二七年公開されるということですので、明治ブームはまだまだ続いていくようです。

それから、今年度から、連合駿台会会長賞を出すことになりました「明治ビジネスチャレンジ」の最終選考会が三月十三日にグローバルフロントで行われ、連合駿台会から副会長十名を始め大学支援委員会のメンバーを入れ、十六名が参加しました。大学側も、「起業・スタートアップ支援室」を新設して、本格的なバックアップ体制を作りましたので、会員の皆さまには、この学生のスタートアップ事業に対し、技術指導、販路拡大、資金調達など経営指導をしていただけたらと考えております。明大発ユニコーン企業誕生を夢見たいと思っております。

当日の講演の主旨は以下の通りです。

*

『傀儡政権』を作りコントロールする作戦

二〇二六年に入ると、早々にドナルド・トランプ大統領は、ベネズエラに対して地上作戦を実施して、マドゥーロ大統領夫妻を拘束し、強制的に彼らを米国に移送して、ニューヨークで裁判を行うこととした。今回の作戦は、MAGA（米国を再び偉大にする運動に賛同する人々）が同調したトランプ氏の政策の柱「アメリカファースト」に相反する行為であることも確かだ。なぜ、トランプ大統領はアメリカファーストを「捨てた」のだろうか？ その背景には何があるのだろうか？

トランプ大統領にはベネズエラへの地上作

戦を実施しても、共和党支持者から支持を得られるという読みがあったのだと思う。加えて、その後の統治方法に関しても、過去の経験から学んでいたのだろう。

世論調査で定評がある東部コネチカット州・クイニピアック大学の全国世論調査（二〇二五年十二月実施）によれば、ベネズエラ国内における軍事力行使に関して、全体では二五％が「賛成」、六三％が「反対」、一二％が「わからない」と回答したが、共和党支持者に限ってみれば、五二％が「賛成」、三三％が「反対」、一五％が「わからない」と答えた。共和党支持者は過半数が軍事力行使を支持したので、アメリカへの麻薬密輸の主犯格であるマドゥーロ大統領を拘束し、ベネズエラの石油権益獲得の再獲得を確保できれば、「ひび」が入ったMAGAを元のように結束させることができる考えた節があるようだ。

トランプ大統領はシナリオ通り、ベネズエラ国内における地上作戦が成功を収めると、記者会見を開き、「統治する」や「占領する」という言葉を用いずに、今後、「アメリカがベネズエラを運営する」と語った。ここには自分の意のままになる『傀儡政権』を作り、ベネズエラをコントロールするという意味が込められている。一方、「統治する」と「占領する」を用いれば、MAGAから「アメリカファースト」ではないと批判されるからである。

アメリカは二〇〇〇年代に入ってから軍事介入を繰り返してきたが、軍事作戦が成功しても、政権交代や統治に失敗するケースが多々見られた。たとえばイラクではフセイン政権が倒れると、国内に混乱が生じて、宗教対立が先鋭化し、過激派組織ISを生むことになった。リビアではカダフィ政権崩壊後、内戦が起り、アフガニスタンでは、結局タリバンの復活を許した。

私がワシントンにあるアメリカン大学異文化マネジメントの客員研究員をしていた時、米軍に招かれて「文化サミット」で、四軍（陸軍、海軍、空軍、海兵隊）を対象にプレゼンテーションを行ったことがある。当時、陸軍の幹部は、アフガニスタンでは米軍が部族から情報をとれないので、異文化コミュニケーションの知識やスキルが必要であると考えていたのだろう。統治や占領には圧倒的な軍事力というハードパワーではなく異文化コミュニケーションというソフトパワーが不可欠だった。トランプ大統領が意図的に「運営」を使用し、ロドリゲス副大統領を暫定大統領に据えて傀儡政権の樹立を選んだ理由には、イラク侵攻後、政府や軍の関係者を追放し、統治に失敗した教訓もあるのかもしれない。

トランプ政権は、混乱や内戦を回避するために、マドゥーロ政権の統治機構をそのまま残し、『頭』のみを代えたのだ。ノーベル平

和賞受賞者で反体制派指導者のマリア・コリーナ・マチャド氏や、二〇二四年の大統領選挙で野党統一候補・ゴンザレス氏を選択しなかった一因はここにあるのだろう。

ニューヨーク・タイムズによると、ルビオ国務長官兼大統領補佐官を含めた政府高官が、もしアメリカが反体制派指導者を支持すると、ベネズエラはさらに不安定化し、国内に強硬な軍隊のプレゼンスが必要になると議論し、トランプ大統領を説得したと報じられた。彼の焦点は石油の権益獲得にあり、ベネズエラの民主主義や自由主義の促進ではないのだ。

トランプ大統領は、今回の地上作戦の狙いについて、石油権益と明言した。反米のベネズエラ政府によって、同国に進出していた米石油企業の資産が「盗まれた」と訴え、石油インフラの修復を行うとも述べた。その裏には、トランプ大統領とアメリカ石油企業の癒着があり、利益の一部がトランプ氏の政治団体に献金として流れ、最終的には彼とトランプ一族の繁栄につながるといふ「カネの循環」があるともみてよいだろう。

トランプ大統領は昨年、カナダを併合して五十一番目の州にすると述べ、グリーンランドとパナマ運河についても取得の意欲を示した。今年に入り、グリーンランド取得に関しては、国家安全保障上の問題というこれまでの議論を強調し、さらなる意欲を見せている。

昨年十二月に公開された米国の「国家安全保障戦略」では、西半球（北米・中南米）をアメリカの絶対的な勢力圏とみなし、そこで卓越した地位を保つと明記している。また同戦略では十九世紀、第五代米大統領ジェームズ・モンローが唱えた米国と欧州諸国の相互不干渉主義（モンロー主義）を二十一世紀の現在に取り入れ、軍事力と脅し・恐怖心で西半球において領土を拡大し、同盟国や友好国、敵国に関係なく、南北アメリカ大陸の国々を米国に従わせようとしている。しかしこの国際法を無視した「ドンロー主義」（「ドナルド」＋「モンロー主義」の造語）は、危険極まりない主義である。というのは、習近平国家主席が、これを通じてデイル（取引）を成立する可能性を排除できないからだ。中国がアメリカの勢力圏である西半球に干渉しない代わりに、アメリカは東アジアに手を出さないという「米中の相互不干渉主義」である。

トランプ大統領は記者会見で、ホワイトハウス担当記者に対してベネズエラ軍事侵攻は「アメリカファースト」であると強調した。その理由に、麻薬対策と石油権益を挙げた。しかし、一月五日まで連邦下院議員だったマージョリー・テイラー・グリーン氏は、前日のNBCニュースのインタビュウの中で、ベネズエラへの軍事攻撃は「アメリカファーストではない」と述べた。エプスタイン問題

でトランプ氏と決別する前までは、グリーン氏はMAGAのスーパースターと言われ、トランプ大統領を熟知している人物でもあった。グリーン氏によれば、元来のアメリカファーストは、物価や雇用および医療保険料などの国内政策を最優先する。麻薬に関しては、彼女は米国内で最大の問題となっているフェンタニルの約七〇％は、ベネズエラではなく、メキシコから入ってくると指摘した。またこれは、「普通の米国人ファースト」ではなく、「政治献金者ファースト」であると非難した。ベネズエラに問題に関しては、政治献金者とは大手米石油企業を指しているのだろう。

さらに、昨年十二月二十九日に掲載されたニューヨーク・タイムズとのインタビュウ中、二〇二六年の展望について聞かれたグリーン氏は、任期が残り三年になり、「トランプは新たな戦争をするだろう」と答えた。トランプ大統領の影響力が低下し、レイムダック状態に陥ることを避けたかったのであろう。

二〇一六年米大統領選挙でトランプが看板政策として訴えた従来のアメリカファーストでは、今後、権力を強化できないのだ。それから十年を経て、アメリカファーストの質が根本的に変わるようになった。西半球におけるドンロー主義は、トランプ氏本人の権力維持のための単なる口実に過ぎないのだ。

イランからの「差し迫った脅威」への格差

トランプ大統領は、イラン攻撃の目的を述べて米国民に攻撃の正当性を強調している。しかしその説明は説得力に欠け、全米レベルでみると米国民はイラン攻撃に否定的だ。一方、米国民の中でMAGAに絞ってみると、トランプ大統領のイラン攻撃および体制転換を強く支持している。アメリカ社会の分断はここでも顕著に現れた。

トランプ大統領はイラン攻撃の目的に、①ミサイル能力の破壊、②海軍の壊滅、③核保有能力の阻止、④テロ組織への支援阻止の四つを挙げた。しかしこれらはすべて「軍事的目的」であり、「政治的目的」、すなわち体制転換による傀儡政権の樹立が含まれていない。当初トランプ大統領は、体制転換（非人道的な独裁体制の打破）を述べた。ところが、国防総省・ヘグセス長官は、イラン攻撃の目的は「体制転換ではない」と記者団に述べて、不一致が現れて変更したとみられる。もちろん、新政権は最低限親米で、米国の傀儡政権を想定していた。

トランプ氏は、自身のSNSで、ベネズエラのロドリゲス暫定大統領を高く評価し、ベネズエラ産原油が米国に輸出されると述べている。彼はイランに対してもベネズエラと同様のシナリオを描いていたのだろう。ベネズエラの民主化には全く関心がなかったトランプ

大統領は、イランでも同様に民主化そのものには興味がなく、「実利」原油を求めているが、ベネズエラのように思い通りに進んではない。最高指導者に選出された故ハメネイ師の息子モジタバ師は、今後も報復とホルムズ海峡の閉鎖を続けると声明を出し、強硬姿勢を崩していない。

この原油獲得に関わる政治的目的は、これに留まるものではない。戦略的石油備蓄の拡大を急ぐ世界最大の原油輸入国である中国に対して、同国が輸入していたイラン産原油とベネズエラ産の原油を抑えて、交渉の際、デイル（取引）のカードに使うという政治的目的もあるのだ。いわゆる親中のイランとベネズエラを攻撃し、中国の影響力を抑えようとするトランプ大統領の心中は、「G2」ではなく「G1」にあるようにみえる。トランプ大統領は、軍事攻撃は予定よりも前倒しで進んでいると繰り返し成功をアピールしているが、これらの政治的目的は達成されないのが現状である。

第一次トランプ政権でも、第二次政権の一年三カ月においても明らかに変わったことは、価値観に基づいた利益配分が二義的になり、自分と周辺の実利を一義的として利益配分を行っているという政治の変化である。大統領が何に向けて、何によってリードしていくかというリーダーシップの問題の上で、質の上

で明らかな変化がみられる。トランプ大統領はイラン産とベネズエラ産の原油を抑えて、自分、一族、側近、献金者および大企業の利益を生むという「個人的目的」を果たすべく、行動しているという一面がある。

また、トランプ大統領はTACO (Trump Always Chickens Out: トランプはいつも尻込みして引き下がる) と呼ばれるが、「TA」はともかく、「CO」は違う。彼は、自分の資産および献金者の資産が減ずる状況に直面すると政策を変える。トランプ大統領が、米国内のガソリン価格の高騰を懸念し、それが十一月三日の中間選挙の結果に悪影響を及ぼすと判断して、突然、軍事的目的の達成を理由に「勝利宣言」を行ったとしよう。そうなった場合、本来、政治的目的に含まれるべき、イランにおける真の民主化を果たせないばかりか、反体制派の民衆を見捨てることにもつながるだろう。

軍事的目的と政治的目的の裏には、常にトランプ大統領の個人的目的があることに注目しなければならない。たとえ軍事的勝利を手に入れても、彼が一番重視していると思われる個人的目的、すなわち個人の利益獲得という目的を果たせなかったなら、トランプ大統領にとっては打撃になる。これまでのところ、個人的目的を果たせないまま引き下がることはいくつで、現状では、イラン産原油の権

益を得るまでには至っていない。

トランプ大統領がイスラエルと共同して行っているイランへの軍事攻撃は、国際法に違反し、米国内では連邦議会の承認を得ずに攻撃したもので、正当化されないとい一般的に批判されている。加えて、主として民主党議員からイランからの「差し迫った脅威」は存在しなかったという非難もなされている。にもかかわらず、トランプ大統領はMAGGから圧倒的な支持を得ている。イランに対する軍事攻撃後に行われた英誌エコノミストと調査会社ユーガブによる全国共同世論調査（二〇二六年三月六〜九日実施）の調査によれば、トランプ氏のイラン対応について、全体の三九％が「支持する」、五二％が「支持しない」、一〇％が「わからない」と回答し、「不支持」が「支持」を一三ポイント上回った。ところが、MAGG支持者に限ってみると、九一％が「支持する」、六％が「支持しない」、三％が「わからない」と答え、約九割がトランプ大統領のイラン対応を支持している。

また「イランの差し迫った脅威」に関しては、「差し迫った脅威をもたらした」（全体二五％、MAGG六三％）、「脅威はあったが差し迫った脅威ではなかった」（全体三八％、MAGG二二％）、「脅威はなかった」（全体二三％、MAGG六％）と回答した。全体では差し迫った脅威あるいは脅威そのものが

「なかった」が約六割を占めたが、MAGG支持者は逆に約六割が「差し迫った脅威があった」という認識を示した。差し迫った脅威は、一般的に軍事行動の正当な理由となっており、米連邦議会の承認なしに攻撃ができる権限を、大統領に与える根拠となっている。MAGGは、なぜ一般の国民と異なる解釈をするのか？ イランが今にも核兵器を保有し、米国を攻撃する差し迫った脅威があったというトランプの「物語」を信じているようにみえる。また、MAGGがよく情報源として好んでいるニュースマックスは、歴代の米大統領が四十七年間（一九七九年親米政権崩壊後）イランに何もしておらず、テロ政権を許してきたが、トランプ大統領が行動に移したと高く評価する報道をしている。さらに、トランプ大統領とルビオ国務長官は、イランが核兵器を保有し、米国を攻撃する可能性が高かったと強調している。

トランプ大統領は、中国、イランおよび北朝鮮が二〇二〇年と二〇二四年の米大統領選挙で、選挙に介入したとMAGGに訴えてきたし、二〇二〇年の大統領選敗北には、これらの国家の責任の一部があるとした。このメッセージは、イラン体制の転換という政治的目的を達成するためのメッセージでもあり、MAGGに強い影響を与えたと考えられる。

「G2」から「G1」の実現を狙う

イランに対する軍事攻撃と体制転換に関して、トランプ政権内に消極的な立場をとる人物がいる。バンス副大統領だ。バンス氏はトランプ大統領がベネズエラを攻撃した際も、攻撃に反対し、トランプ大統領の核となる「チームから外された」と報じられた。その点では、バンス副大統領は「本MAGG」とみてよい。新たな戦争や外国政府の体制転換に反対の立場を貫いた。一方、トランプ政権内で主導権を握ったのはルビオ国務長官で、ベネズエラ攻撃は彼が政策立案者だと言われた。今回のイラン攻撃においても、バンス氏は積極的に攻撃を正当化せず、あまり関与していない。記者会見で、副大統領としてトランプ大統領の後ろに立つことも少ない。

三月十三日、南部ノースカロライナで約三十分演説を行った際も、減税から入り、移民問題や選挙制度改革法案について述べ、最後の最後に「トランプ大統領は、イランは核兵器を持つことはできないと繰り返し語っている」と一言触れたのみであった。演説後、記者団がイランとの戦争に関してバンス氏がトランプ氏にどのような提案をしているのか質問をすると、バンス副大統領は「米国のメディアに対していらないことをペラペラしゃべるアドバイザーとは、大統領は話せない」と回答し、質問をかわした。バンス副大統領

【講師略歴】

海野 素央（うんの・もとお）

アメリカン大学（ワシントンD.C.）異文化マネジメント研究所元客員研究。専門は異文化間コミュニケーション論、異文化マネジメント論。

二〇〇八年と二〇一二年米大統領選挙で研究の一環としてオバマ陣営にボランティアの草根運動員として参加。激戦州南部バージニア州などで四千二百軒の戸別訪問を実施。

二〇一〇年、二〇一四年および二〇一八年中間選挙において、コノリー元下院議員の選挙運動に加わる。

二〇一六年米大統領選挙ではクリントン陣営に入る。中西部オハイオ州、ミシガン州並びに東部ペンシルバニア州など十一州で三千三百軒の戸別訪問を行う。

二〇二〇年民主党大統領候補指名争いではバイデンとサンダース両陣営で戸別訪問を実施。南部サウスカロライナ州などで黒人の多い地域を回る。

著書に「オバマ再選の内幕」（同友館）など多数。ウエッジオンライン及び静岡新聞「時評」で連載中。

は今回のイラン攻撃を「トランプとイスラエルが行っている戦争」であって「バンスの戦争」とはみられたくない。心理的にトランプ大統領と距離があるバンス大統領は、物理的にも距離を開けている。

一方、トランプ大統領は南部フロリダ州の

私邸での記者会見で、バンス副大統領の言動に関する記者団からの質問に「彼とは哲学的に少し違う」と回答し、イランおよびベネズエラ攻撃に関して二人の間に「温度差」があることを認めた。トランプ氏はMAGAから信頼の厚いバンス氏を必要としているが、その一方で、バンス氏の存在がトランプ氏の願望に対する阻害要因になる可能性もある。現状の「G2」に甘んじているトランプ大統領だが、その本音には「G1」があるのだ。これからの「G2」と「G1」の展開に注目して行きたい。

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。（敬称略）



田中 尚
平成二年・政経学部卒
（株）東武百貨店
代表取締役社長
埼玉県越谷市在住



橋場 雅
平成六年・商学部卒
（株）NTデータインフラマート
上席執行役員
東京都足立区在住



古田 英範
昭和五十七年・工学部卒
富士通（株）・取締役会長
神奈川県横浜市在住



小関 雄一
昭和六十二年・経営学部卒
富士通（株）・常勤監査役
神奈川県鎌倉市在住



古賀 一司
昭和六十三年・法学部卒
富士通（株）・執行役員専務
神奈川県横浜市在住



小川 辰志
昭和六十三年・工学部卒
マックス（株）
代表取締役社長
東京都中央区在住



坂井 寿如
昭和六十二年・経営学部卒
一般社団法人ICONE
アジアリーグアイスホッケー事務局長
東京都品川区在住



真鍋 憲三
まなくわ けんざう
昭和六十二年・政経学部卒
ユニバーサル企業(株)
取締役西日本管理事業本部・営業本部長
神奈川県横浜市在住東京都品川区在住

◆明大ニュース

●二〇二六年度入学式を挙行

8903人が新たな「個」をみつけるため、
「前へ」

明治大学は日本武道館（東京都千代田区）で四月七日、二〇二六年度入学式を挙行了。新入生8903人（学部生7687人、大学院生1216人）が明大生としての第一歩を踏み出した。

式典は学部・大学院別に午前・午後の二部制で行われ、いずれも上野正雄学長の告辞、柳谷孝理理事長、山本早苗連合父母会長による祝辞に続き、新入生代表が宣誓を行った。

上野学長は告辞で、建学の精神「権利自由、独立自治」に触れ「大学生活は、新たな知に会おう時間であると同時に、新たな人、まだ見ぬ自分と会おう時間でもある。他者と対話を重ね、思索を深める中で、自らの言葉で世界を語り、未来を変えていく存在へと成長してほしい」と語りかけた。続く祝辞で柳谷理事長は、「世界で起きているさまざまな問題に当事者意識を持ち、社会はどうあるべきか、

その実現のために自分は何をすべきかを能動的に考えてほしい」と激励。山本連合父母会長は、「明治大学での学びを通じて、多くの出会いと挑戦を経験し、それぞれの夢と可能性を大きく広げてほしい」と呼びかけた。

新入生代表による宣誓は、午前の部に商学部の藤原泉美さん、午後の部に国際日本学部の假谷麻心さんが登壇。藤原さんは「学問に真摯に向き合い、どのような困難に直面しても決して諦めることなく、挑戦し続ける強い意志を持ち続けたい」と述べ、假谷さんは「多様な文化や考え方に触れながら、日本が持つ魅力と課題の双方を見据え、それらを自らの言葉で発信する力を身に付けたい」と決意を表した。

続いて、文部科学省アントレプレナーシップ推進大使で、(株)日本政策金融公庫の森本淳志氏（一九九三年政経学部卒）が「『個』を強くし、時代を切り拓く力を持つために『アントレプレナーシップ』による未来への挑戦」をテーマに入学記念講演を行った。森本氏は、「自ら考え行動する力を大切にし、失敗を恐れず挑戦してほしい」とエールを送った。講演後には校歌斉唱が行われ、入学式は閉式した。

式典後に行われた新入生歓迎セレモニーでは、交響楽団、グリーククラブ、混声合唱団による新入生歓迎演奏のほか、校友（卒業生）

からのメッセージ映像が上映された。登場したのは、(株)TEAS Air取締役・チャリダーの土屋炎伽さん（二〇一五年国際日本学部卒）、(株)Yutori代表取締役社長の片石貴展さん（二〇一六年商学部卒）、フィギュアスケーターでミラノ・コルティナ二〇二六冬季オリンピックのフィギュアスケート団体で銀メダル、男子シングルで銅メダルを獲得した佐藤駿選手（政経4）の三人。温かいメッセージに会場から拍手が送られ、セレモニーは締めくくられた。

●明治ビジネスチャレンジ

救急救命×防災DXのビジネスプランに

一〇〇万円と起業サポート

明治ビジネスチャレンジ実行委員会（事務局：起業・スタートアップ支援室）が主催するビジネスコンテスト「第四回明治ビジネスチャレンジ」の最終選考会が三月十三日、駿河台キャンパス・グローバルホールで開催された。

十一月に第一次選考会を通過した八組は、十二月から二月にかけて、ピッチ指導等を行うアクセラレーションプログラムを受け最終選考会に臨んだ。ステージでは多様なビジネスプランが披露され、賞金一〇〇万円と一年間の起業サポートが贈られる最優秀賞には、山田海都さん（政経4）の「救急救命×防災

DX。かざして命を守るNFCブラットフォーム」が選ばれた。山田さんは北海道鷹栖町での実証実験等により開発を進めてきたサービスについて「すぐにでも実現したい。皆さん、ぜひ仲間になってください」と来場者らに語りかけた。

このほか、優秀賞（賞金三〇万円と一年間の起業サポート）には久保敷真唯さん（商3）の「外国人向け日本語AI教育Saas」、新人賞（賞金一〇万円）には曾我れもんさん（経営2）の「摂食障害の回復を支援する当事者発CBT×AIセルフケアアプリ」、連合駿台会会長賞（賞金三〇万円）は原口浩幸さん（グローバル研2）の「農業の担い手不足を解決するコンサルティングサービス」がそれぞれ選ばれた。

外部審査員によるトークセッションには、(株)日本政策金融公庫の佐藤俊太氏、(株)ツクリエ代表取締役の鈴木英樹氏、アソビュー(株)代表取締役の山野智久氏（二〇〇七年法学部卒）が登場。参加者のプレゼン内容に触れながら討論し、佐藤氏が「明治ビジネスチャレンジの受賞者は、実際に起業している人が多い」と述べると、山野氏は「これこそ明治の『前へ』の精神」と評した。参加者からの質問に対しては、3氏から個別に助言と激励の言葉が贈られた。

受賞者は今後、専門家による支援を受けな

がら起業に向けた準備に入る。

●政財界で活躍する校友と懇談会 国会議員や首長、上場企業の役員ら約二百 八十人が来校

明治大学は三月四日、法人役員・大学役職者と政財界で活躍する校友との懇談会を、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催した。九回目となる今回は、国会議員や首長、企業役員ら約二百八十人が来校した。この懇談会は、校友同士のネットワーク構築と、大学の近況への理解を深めてもらうことを目的に実施されている。

柳谷孝理理事長はあいさつで、創立一五〇周年に向けた記念事業である山の上ホテル建築物保存・継承事業、駿河台キャンパス総合施設整備計画「SURUGADAI六・〇」、「紫紺の襷プロジェクト」などを紹介。「大学淘汰の時代に、本学は創立一五〇周年を迎える。世界に開かれた大学、世界に発信する大学として、輝き続けてまいりたい」と述べ、引き続きの協力を求めた。続いて上野正雄学長は、起業・スタートアップ支援室、副専攻プログラム、サバティカル研究制度、URASセンターなど、教育・研究の両面での環境整備を紹介し、「十八歳人口の減少やAIなどの技術革新により社会構造が変化する中、大学の教育・研究の在り方も問われている。忌

憚ないご意見を伺いたい」と呼びかけた。

出席者からは、自由民主党幹事長代行の萩生田光一氏（一九八七年商学部卒）と、(株)そな銀行代表取締役社長（当時）の岩永省一氏（一九八九年経営学部卒）が登場。萩生田氏は「これからの大学には個性が求められる。個性豊かな卒業生が社会で活躍することが、その成果につながる。倒れても起き上がって前に進む——そのような明治大学の精神で、私も仕事に取り組んでいる」と述べ、「母校のますますの発展をお祈り申し上げる」とあいさつした。

岩永氏は現在の明治大学について「都会的、スタイリッシュ、グローバルというイメージがある」とした上で、「当時のバンカラなイメージはすでにないが、根底にあるものは変わらない。連帯感を持ちながらも徒党は組まず、静かに実力を発揮する。変化の時代にあっても、政財界で活躍する卒業生が出てくるだろう」と述べ、「卒業生が若い世代を温かく見守っていくことで明治大学が発展していく」と語りかけた。

懇談会は向殿政男校友会名誉会長の乾杯の発声で始まり、校友と大学関係者による意見交換や懇談が行われた。

●村山富市先生を偲ぶ会

駿河台キャンパスで三月二十日、元内閣総

理大臣・本学顧問の村山富市氏（一九四六年専門部政治経済科卒・二〇二五年十月十七日逝去）を追悼する式典「村山富市先生を偲ぶ会」が執り行われ、ご遺族や大学関係者が列席した。

弔辞で柳谷孝理事長は「温厚で誠実なお人柄は校友の胸に刻まれている」と哀悼の意を表し「社会に貢献する人材育成と大学の発展が先生への恩返しになる」と述べた。北野大校友会長は「先生は多くの人から親しみを込めて『トンちゃん』と呼ばれた。そのような温かさとおおらかさは明治大学の精神そのもの」と述べ「トンちゃん、長い間ありがとうございました」と謝意を表した。その後、マンドリン倶楽部OB・OG有志による演奏の下、献花が行われた。

続いて行われた懇談会では、ご遺族の中原由利氏がいさつに立ち「平和を愛した父の礎は明治大学の校風にあったと思う。父は明治大学の校友会が大好きだった」と振り返った。上野正雄学長が村山顧問を偲んで献杯を行い、懇談があった後、向殿政男校友名誉会長が村山顧問と校友会との深いつながりに触れながら閉会のあいさつを述べ、会を締めくくった。

●付属世田谷中学・高校が始動

明治大学付属世田谷中学校・高等学校は四

月八日、本学の系列校となつてから初めてとなる入学式を挙行した。同校は本年四月、系列校化に伴い、日本学園中学校・高等学校から校名変更し、男女共学となった。

第1期生となる生徒を迎え、谷口哲郎校長は式辞で建学の精神「身心清潔見義明決者得稱大日本人」に触れ、「得意なことを出発点に、自らの学びの道を見つけてほしい」と語りかけた。続いて田部井茂理事長は「学校生活での経験一つ一つが財産になる。失敗を恐れず挑戦してほしい」と激励した。

明治大学からは柳谷孝理事長と上野正雄学長が出席。祝辞で柳谷理事長は「これからの時代は、自ら問いを立て、考え続ける力が重要。明治大学の付属校生であることの誇りを胸に、幅広い経験と知識を得てほしい」と述べ、上野学長は「『個』を強くした皆さんが明治大学の門戸を叩いてくれることを楽しみにしている」と期待を寄せた。

式典の最後に、同校校歌と本学校歌を斉唱し、同校初の入学式を締めくくった。

●山の上ホテル建築物保存・継承事業で

竹中工務店と定期建物賃貸借契約

明治大学と㈱竹中工務店は三月二日、山の上ホテルの歴史的建築物の保存・継承に向け、期間約十八年（改修工事期間を除く）の定期建物賃貸借契約を締結した。この保存・継承

事業は、明治大学創立一五〇周年記念事業および竹中工務店の「レガシー活用事業」として実施される。

竹中工務店は、二〇二七年夏ごろの開業を目指して建物の改修工事を進める。ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計を尊重しながら改修し、客室、レストラン、宴会場を備えたホテルとして再生する。ホテルの新名称は「山の上ホテル東京」（英語表記＝HILTOP HOTEL TOKYO）。運営は㈱Plan・D o・Seeが担う。

明治大学は、短期留学プログラムの宿泊施設や、生涯学習拠点「リバティアカデミー」や地域連携・社会連携活動の場等として活用する予定。

●OB社長

▽サッポロ不動産開発㈱＝富岡良之氏（一九九三年法学部卒・五十六歳）

▽クリエイト㈱＝五十嵐昭彦氏（一九九六年経営学部卒・五十二歳）

▽日本カーソリューションズ㈱＝永田勝己氏（一九八七年政経学部卒・六十一歳）

▽三菱電機トレーディング㈱＝菅谷順氏（一九八七年法学部卒・六十二歳）

▽セキスイハイム中四国㈱＝中林克憲氏（一九九三年法学部卒・五十六歳）

▽㈱HCフィナンシャル・アドバイザー＝西

連合駿台会ホームページ 会員専用ページ開設のご案内

令和 8 年 5 月 15 日

連合駿台会広報委員会

平素より連合駿台会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

連合駿台会ホームページは、会の活動に関する各種情報の共有および連携の強化を目的とし、活動報告や関連資料を掲載しております。このたびホームページ内に会員の皆様限定した「**会員専用ページ**」を新たに開設いたしました。会員専用ページでは、**各種会合のご案内や会報バックナンバー、新入会員紹介が閲覧いただけます。**

会員の皆様におかれましては、適宜ご活用賜りますようお願い申し上げます。

■ ご利用にあたってのお願い

本ページは、会員の皆様のみを対象とした情報共有の場として、共通の ID およびパスワードにより運用いたします。その趣旨をご理解のうえ、下記につきご協力をお願い申し上げます。

- ID およびパスワードは、**会員以外の第三者へ開示されないよう**ご配慮ください
- 本ページに掲載される情報につきましても、**適切なお取り扱い**をお願い申し上げます

本会の円滑かつ有意義な運営のため、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ アクセス情報

URL: <https://membership.rengosundaikai.jp/>

ID rengosundaikai1953

パスワード meisuimeiyu2002

[https://membership
.rengosundaikai.jp/](https://membership.rengosundaikai.jp/)



塚淳氏（二〇一二年商学部卒・三十七歳）

▽(株)ひろぎんホールディングス＝廣江裕治氏

（一九八九年法学部卒・五十九歳）

〈六月の定時株主総会・取締役会後就任〉

●理工学部・総合数理学部

「向殿政男資金」表彰式

理工学部と総合数理学部は、それぞれ「向殿政男資金」の表彰式を行った。

同資金は、元理工学部長の向殿政男名誉教授から、理工学部情報科学科および総合数理学部先端メディアサイエンス学科に寄せられた寄付金を原資に、両学科の教育研究の振興と発展に資することを目的として、二〇一五年度に設立された。

情報科学科では、幅広い分野を学ぶことを大切にする向殿名誉教授の考えに基づき、3年次修了時のGP（Grade point）が上位の学生を対象としている。先端メディアサイエンス学科では、学業成績が優秀で、優れた研究成果を上げた学生を対象としている。いずれも対象は4年生。

理工学部では四月八日、学科ガイダンス内で表彰式を行い、浮貝潤さん、宇山直希さん、宮尾侑樹さんに賞状と副賞を授与した。総合数理学部では四月六日、学科ガイダンス内で表彰式を行い、笠原雅仁さん、金子翔平さん、岡井尚也さんに賞状と副賞を授与した。

●畠中君代アスリート支援資金で

競走部女子の部室を整備

体育会硬式庭球部出身の畠中君代氏（一九六七年文学部卒・当会副会長）からの寄付を原資とする「畠中君代アスリート支援資金」を活用し、八幡山グラウンド第一合宿所内に体育会競走部の女子選手およびマネージャーのための部室が整備された。本件は同資金を活用した初の取り組み。

三月二十八日に畠中氏を招き、当該部室の引き渡し式が実施された。部室は、畠中氏への感謝と親しみを込め、「きみちゃんルーム」と名付けられた。

畠中氏は、「学生時代は八幡山のテニスコートで練習していたが、当時は女性アスリートのための環境整備が十分ではなかった。今回整備された部室を活用してもらうことで、明治大学女子スポーツのさらなる発展と皆さんの活躍を期待している。スポーツだけでなく、勉強にもしっかり取り組んでもらいたい」と述べた。

現在競走部に所属している二人の女子選手を代表し、椎名ひまりさん（政経2・三段跳び）が「これまで専用の居場所がなかったのととてもうれしい。自己ベストを更新し、関東インカレ出場を目指したい」と抱負を語った。

その後、競走部から感謝の意を込め、主務

の若海優香さん（農3）が畠中氏に駅伝用ウォーマーを贈呈した。

スポーツ推進本部は、今後も同資金を活用し、女性アスリートの競技環境の整備を計画的に推進していく。

●上野正雄学長が始球式

東京六大学野球春季リーグ戦が開幕

上野正雄学長は明治神宮野球場（東京都新宿区）で四月十一日、東京六大学野球春季リーグ開幕戦の始球式を行った。明治大学が二〇三一年に創立一五〇周年を迎えることにちなみ、背番号一五〇のオリジナルユニフォームを着用してマウンドに立ち、力強い一球を投じた。

体育会硬式野球部は昨年の秋季リーグ戦で、二〇二三年春季以来五季ぶりとなる通算四十四回目の優勝を果たし、一九九六年秋季以来二十九年ぶりとなる全勝優勝（10戦全勝）を達成した。

二〇二六年度のチームスローガンは「繋げ」。昨秋の優勝を一過性のものに終わらせず、今春、そしてその先へとつなげていくという決意の下、チーム一丸となってリーグ戦に臨む。

◆三月例会出席者

青柳勝栄、浅井宏、安達明正、阿部倫明、

有賀隆治、石川均、泉山和久、伊東正博、乾和行、伊原敏雄、潮田伊佐夫、梅野修、榎本知佐、大谷正則、大野正美、大原幸男、大前実之、大村託現、岡田誠司、奥山弘幸、小座間善隆、鬼塚和也、加賀美猛、金井健、狩野省市、栢森靖、河村博、神林光、木下唯史、清野明男、杳掛英二、國井泰成、久保田優子、栗原権右衛門、黒崎昭男、小井戸亮文、小濱雅説、小林伸弘、小松健、小山修、小山有彦、根田吉雄、斎藤一郎、齋藤柳光、酒井喜壽、坂田英夫、坂田正弘、佐藤仁、佐藤陽子、佐野公哉、柴尾雅春、柴田清之、杉浦伸二、鈴木一巳、鈴木隆志、関口勝裕、関根均、相臺志浩、園部洋士、高澤徹、武内裕、田中彰一、谷川薫、田村駿、田村健、田母神博文、樽見俊之、辻井知明、当山明彦、富水流孝二、永井伸彦、長岡利行、中川敏洋、中野祥宏、二井康夫、西澤豊、野口一哉、野田康平、萩原裕次、長谷川進一、畠中君代、幡谷公朗、同ご友人、塙英幸、馬場範夫、林威樹、原宏、平田桂子、廣江研、深代尚夫、福見勉、藤代耕一（代理）、古本英樹、真家裕介、前川一郎、榎野泰、松崎優子、宮澤一洋、宮下隆、村岡健、室井恵明、森一朗、安田信幸、柳井光子、柳谷孝、山口政廣、山口又宏、山田晃久、山田朝彦、弓野理恵、吉田菊次郎、吉田光一郎、渡邊健三、渡邊容子



経済、法曹、文化など各界でご活躍の明治大学校友諸氏よ！ 来たれ！「連合駿台会へ！」

「連合駿台会」は、1953年に設立された「茗水クラブ」と、1964年に設立された「明友クラブ」が2002年に統合して設立された歴史と伝統のある校友組織です。

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

今年も4月7日に、にぎにぎしく日本武道館にて入学式が執り行われました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、千鳥ヶ淵の桜はまだまだ咲き誇り、新入生を優しく迎えてくれているようでした。

8903人の新入生がこれからの学生生活への期待と夢を胸いっぱいに膨らませたことと思います。新しい経験、新しい友、大いに謳歌してほしいと思います。

そして、これからの明治大学を前進させ、かつ楽しみながら伝統を守ってくれることを期待してやみません。新入生の皆さんは、スタートアップやアントレプレナーシップを持ちつつ新しい社会や世界を創生していかれることでしょう。私たちは明治大学の先輩として温かいまなざしで見守り、応援していきます。ぜひ有意義な学生生活を楽しんでください。

各界で活躍されておられる明治大学校友のご入会を歓迎いたします



資料のご請求はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL: 03-3296-4747 FAX: 03-3296-4748
Email: rengousundaikai@silk.ocn.ne.jp

連合駿台会

検索

★明治大学広報(5月1日号)に掲載された大学への支援広告。今後も2ヵ月に1回掲載していく予定です。

【編集後記】

連合駿台会が設立されて二十四年。

詳しく説明すると、一九五三年に設立された「茗水クラブ」と一九六四年に設立された「明友クラブ」が、二〇〇二年に統合されたものです。

来年はいよいよ二五周年。

記念のイベント等が望まれるところです。

さて、私が明治大学短期大学を卒業して五十七年。そっか、そんなに月日が経っているとは。

しかも七十八歳の現在でも現役で仕事を続けていられるとは当時思いもしなかった。

まして、この伝統ある連合駿台会の会員として在籍することになるとは！あの短大時代には想像すらできなかった。

連合駿台会に入会してたくさんの方の素晴らしい方々の知己を得た。また広報委員も拝命し、日々勉強させていただいている。

人の人生は全てご縁である。私の人生も勿論ご縁で繋がれて今日がある！

私が明治大学短期大学に入会したご縁は、大きな転機となるご縁だった。

何故ならその後入社して、定年まで勤め上げたフジテレビは当時女子二十五歳定年制があり、短大卒しか入社資格は無かった。明治大学短期大学に入学して無ければ、今日の私は無かったのだ。

今日の私が存在できていることをつくづく噛み締めて痛感している。

(平田静子)